

令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和7年10月7日

枚方市立杉中学校

文部科学省が今年4月に実施した、令和7年度全国学力・学習状況調査の結果について、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童（生徒）の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

※調査結果について

教科や出題範囲が限られていることから、全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部分です。

<学力調査結果の概要>

○国語について

→今年度の本校の調査結果は、全国をやや下回る結果であった。

「書くこと」に関する問題の正答率が比較的高く、誤字の修正や理由の説明ができており、文章構成力や表現力が培われている生徒が多い。「読むこと」では、物語の構成の理解などの正答率が高く、文章全体の構造をとらえられるようになってきた。また選択式の問題での正答率が高く、情報の整理や判断力が発揮されている。

○数学について

→今年度の本校の調査結果は、全国をやや下回る結果であった。

「知識・技能」に分類される問題の正答率が比較的高く、基礎的な内容は理解できている生徒が多い。

図形の証明に関する問題では記述力も含めて一定の成果が見られた。

また、グラフから情報を読み取る問題や、確率に関する選択問題で健闘しているが、さらなる思考力・記述力の強化が望まれる。

令和7年度 全国学力・学習状況調査中学校<理科>について

中学校(理科)はCBTによる調査を実施。IRTスコアをベースに結果を示しております。

IRTとは

児童生徒の正答・誤答が、問題の特性(難易度、測定精度)によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。

項目反応理論(Item Response Theory)。

異なる問題からなるテストの結果や、異なる集団で得られたテストの結果を互いに比較することができる。

※PISA、TOEIC・TOEFL等の英語資格・検定試験、医療系大学間共用試験等で採用されている。



<参考> 素点方式(正答数・正答率)、IRT方式の比較

※視力検査を例としたイメージ

本資料はイメージを表すことを目的として作成したため、示された7つのランドルト環の大きさ(難しさ)がAさんとBさんと異なっている。

素点方式		IRT方式	
得点(スコア)の表現方法	何個のランドルト環(C)を見ることができたか	どの大きさのランドルト環(C)を安定的に見ることができたか	
得点(スコア)の例	0.1	0.1	0.1
	0.2	0.2	0.2
	0.3	0.3	0.3
	0.4	0.4	0.4
	Aさん 5問/7問 (正答率71%) > Bさん 4問/7問 (正答率57%)	Aさん 0.2 < Bさん 0.3	

※素点方式の場合は、Aさんの方が正答数(見ることができたランドルト環の数)・正答率が高くなる。IRT方式の場合は、Bさんの方がスコア(視力)が高くなる。

悉皆調査でIRTを導入するメリット



- ① 調査日の複数設定が可能になる。各児童生徒が異なる問題を解く設計にできる。
- ② 今まで以上に多くの問題を使用し、幅広い領域・内容等での調査が可能になる。
- ③ 学力の経年変化を各教育委員会・学校でも把握できる。

<学力調査結果の概要>

○理科について

→グラフや図から情報を読み取る問題に課題があった。しかし、全国に比べ正答率が大幅に低い問題も無回答が全国に比べて少なく、「わからなくてもやってみる」という姿がデータから読み取れた。とにかく何でもやってみようとする杉中生の強みがよく出たデータとなった。

国語科において成果があった設問

【成果が見られた設問】

資料の目的や効果を的確に考えられる。

【ちらし】

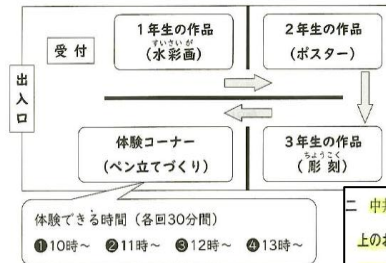
第一中学校 美術展

毎年、秋に行っている第一中学校の美術展のお知らせです。
私たちが美術の時間につくった作品を展示します。どれもいいしんの出来です。
今年は、中学生による作品の説明や小学生向けの体験コーナーもあります。
体験コーナーでは、中学生と一緒^{いっしょ}に、好きな色のタイル^{たいる}を貼って自分だけのペン立て^{ペン立て}をつくることができます。

日 時 令和7年11月15日(土) 10時～16時

場 所 第一中学校 体育館

会場図



ニ 中井さんは、【ちらし】に、【第一中学校のウェブページ上のお知らせ】には示されていない「会場図」を加えました。どのような目的で加えたと考えられますか。次の1から4までのうち、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 小学校6年生に向けたらしであることを示すため。
- 2 ウェブページの情報と比較しやすくするため。
- 3 会場となる体育館まで迷わずに来てもらうため。
- 4 展示する作品と体験コーナーの内容や配置を伝えるため。

考察

1年生の頃からグラフ、資料を扱う単位では「初めに個人の発見・疑問をみつける」➡「自分なりに再度考える」➡「班で交流する」➡「答えを見つけ出す」といった活動を繰り返し続けてきたため、資料の目的や効果を考え分析する力が身についているのではないかと考える。また、正答率も全国より高いことはもちろんだが、無解答率が低いことから全体的層に資料について考える力が浸透しているようにも思える。

	正答率	無解答率
本校	85.5	0
全国	82.5	0.3

物語の表現に着目して読み、その表現の効果を捉えられる。

- 1 語り手が読者に、榎木の実に関する経験を問うことによって、二人の兄弟の相互関係に関心をもたせる効果。
 - 2 語り手が読者に、榎木の実に関する経験を問うことによって、榎木の実にまつわる物語に関心をもたせる効果。
 - 3 語り手が読者に、兄弟や家族との関係を問うことによって、二人の兄弟の相互関係に関心をもたせる効果。
 - 4 語り手が読者に、兄弟や家族との関係を問うことによって、榎木の実にまつわる物語に関心をもたせる効果。
- 3 次の文章は、島崎藤村が書いた「二人の兄弟」という物語です。この物語は「一 榎木の実」、「二 釣の話」で構成されています。これを読んで、あとの問いに答えなさい。
- 皆さんは榎木の実を拾ったことがありますか。あの実の落ちている木の下へ行ったことがありますか。あの香しい木の実を集めたり食べたりして遊んだことがありますか。
- 一 「一 榎木の実」の線部が、物語の始めに示されていることによる効果を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

考察

普段の授業から文章の構成や段落の働き、書き手が読み手を惹きつける工夫(表現)などに着目して読むことを意識している。また、予習・復習を兼ねて、家庭学習では自分の気づいたことや学びを単位ごとにノートにまとめ、授業内容をアウトプットするようにしている。この成果もあり、何気ない表現でも文章全体との関連性を考え読めたのではない。全国と比べるとわずかではあるものの、8割弱の生徒が正しく解答できていることからそのように窺える。

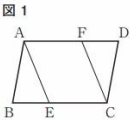
	正答率	無解答率
本校	82.4	0
全国	80.0	0.5

数学科において成果があった設問

【成果が見られた設問】

証明を振り返り、新たにわかる事象を選ぶ。

- 9 右の図1のように、平行四辺形ABCDの辺BC、DA上に、BE = DFとなる点E、Fをそれぞれとります。
このとき、四角形AECFは平行四辺形になります。このことは、次のように証明できます。



証明 1

平行四辺形の向かい合う辺は平行だから、
AD // BC
よって、AF // EC①
平行四辺形の向かい合う辺は等しいから、
AD = BC②
仮定より、
DF = BE③
②、③より、
AD - DF = BC - BE④
④より、
AF = EC⑤
①、⑤より、
1組の向かい合う辺が平行でその長さが等しいから、
四角形AECFは平行四辺形である。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

- (1) 証明1では、四角形AECFが平行四辺形であることを証明しました。四角形AECFが平行四辺形であることから、新たにわかることがあります。それを下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

- ア BE = DF イ AF = EC
ウ AE = FC エ AB = DC

考察

中学2年生の合同の証明の内容の問題である。全国より正答率が高くなった理由としては履修時期が2年生の後半の内容で学習内容が記憶に残っている内容であったからだと考えられる。

	正答率	無解答率
本校	61.5	1.5
全国	58.5	1.1

必ず起こる事柄の確率について理解しているかどうかみる

- 7 優斗さんと芽依さんは、地域のイベントで「じゃんけんカードゲーム」を行うことを計画しました。そこで、先に「ゲーム」「チャッキ」「パー」の絵がかかれたカードをそれぞれ同じ枚数ずつたくさん準備しました。これらのカードを裏にする。次の「ゲーム」「チャッキ」「パー」の絵はわかりません。
二人は、これらのカードを使ったゲームの進め方を、次のように考えました。

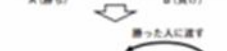


進め方

- ①: 準備したすべてのカードを裏にしてよく混ぜ、裏にしたまま、同時に表にする。同時に表にするカードの枚数を数える。



- ②: AとBは、手元のカードのいずれか1枚を同時に表にする。じゃんけんのルールをもとに勝敗を決め、負けた人は勝った人に表にしたカードを渡す。これを1回目とする。



ただし、あいこのときはカードの受け渡しをせず、3回目を繰り返す。

- ③: 1回目終了後、自分の手元のカードを、すべて裏にしてよく混ぜてから進め、②と同様に2回目を行う。
④: 2回目終了後、手元のカードの枚数に応じて賞品をもらう。

優斗さんと芽依さんは、裏ページの進め方でゲームを行うときのAとBのそれぞれの勝ちやすさについて調べることになりました。

次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。ただし、手元のカードのいずれか1枚を表にするとき、どのカードを表にすることも同様に確からしいものとしなさい。

- (1) 優斗さんと芽依さんは、裏ページの進め方で、右の図のようにAとBのそれぞれの手元のカードが同じ絵のカードになる場合があることに気づきました。
Aの手元のカードが3枚とも「ゲーム」、Bの手元のカードが3枚とも「チャッキ」で1回目をを行うとき、次のことがいえます。

1回目は必ずAが勝つから、1回目にAが勝つ確率は である。

上の に当てはまる数を書きなさい。

考察

問題を読んで確率を答える問題である。正答率は全国より高く、無回答率も全国より低い結果となった。理由としては上記と同様に中学2年生の3学期に履修した学習内容であるためと考えられる。

	正答率	無解答率
本校	78.1	2.3
全国	77.4	3.2

理科において成果があった設問

【成果が見られた設問】

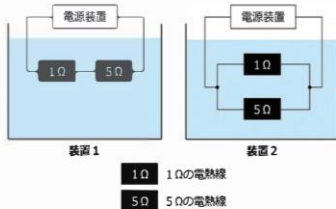
電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する。



より速く水を温めるには、電熱線をどのようにつなげたらよいでしょうか。右の装置で考えてみましょう。



同じ電圧を加えたとき、回路全体の抵抗がどうなるかを考えれば分かりそうです。



(1)

回路全体の抵抗が大きいのは装置1、装置2のどちらか、1つ選びなさい。また、下線部について、同じ電圧を加えて、より速く水を温めることができるのは装置1、装置2のどちらか、1つ選びなさい。

回路全体の抵抗が大きい 選択肢から選ぶ 速く水が温まる装置 選択肢から選ぶ

電熱線を利用して水を温めるための電気回路について、直列と並列とで回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する。

考察

全国と比べても高い正答率を示している。

2年時、電気回路の問題演習に取り組んだだけでなく、自分たちで回路図の問題を作成し出題者側になったことで電気分野に対する理解が大幅に進んだことが要因であると考えられる。

	正答率
本校	53.8
全国	51.9

Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す。

Aさんの考えを肯定するためにはボーリング地点③の結果がどのようになればよいかを判断し、青色の地層を移動させ、ボーリング地点③の結果をモデルで示す。

図2はボーリング地点①、②、④の結果です。この結果から、青色の地層は、『・は地表面の下に存在する・同じ厚さである・ボーリング地点②と③の間に断層が一つある』と考えました。

Aさん



Aさんの下線部の考えが正しいなら、ボーリング地点③の結果が予想できますね。

【ボーリング調査の結果】

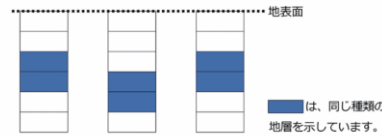
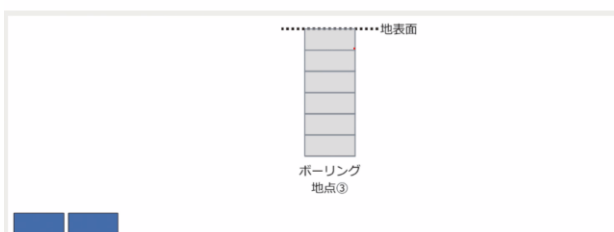


図2 ボーリング調査の結果

(2)

下線部の考えが正しいと言うためには、ボーリング地点③のボーリングの結果がどのようになればよいか。青色の地層を必要な数だけ適切な位置に移動させ、最も適切なボーリング地点③の結果を示しなさい。



考察

全国と比べて正答率が低いにも関わらず、無解答率は1番低かった。

普段の授業から、無回答の評価を厳しくしていたことで、「まずはやってみる」という姿勢がこの設問からみられた。

	正答率	無解答率
本校	17.7	0.8
全国	18.1	1.1

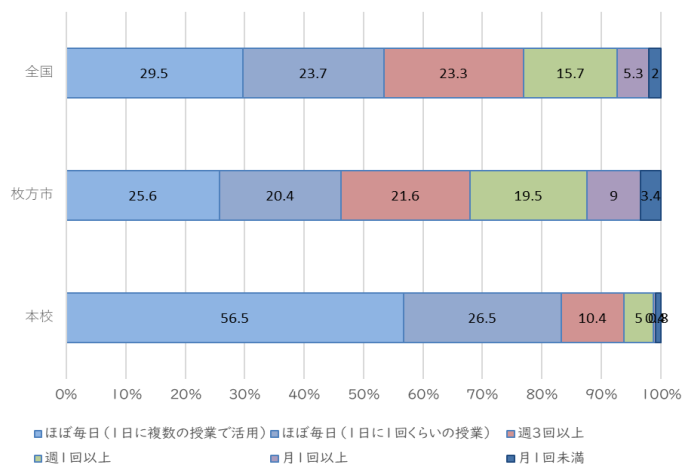
質問紙調査の結果

※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。

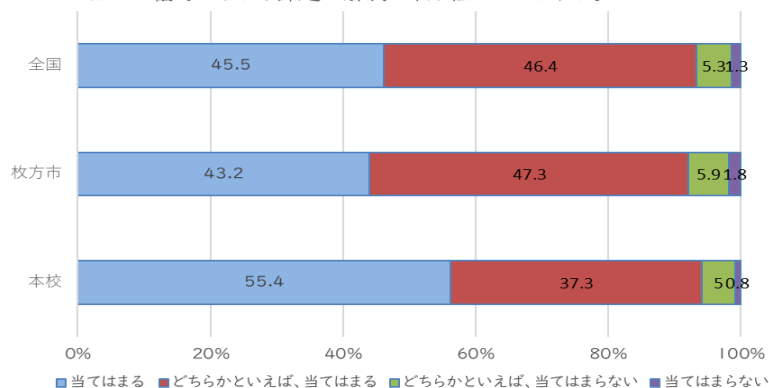
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

【成果が見られた項目】

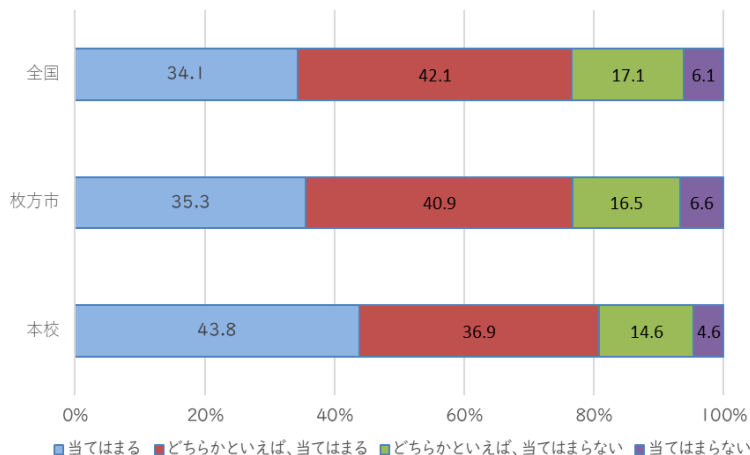
(28) 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。



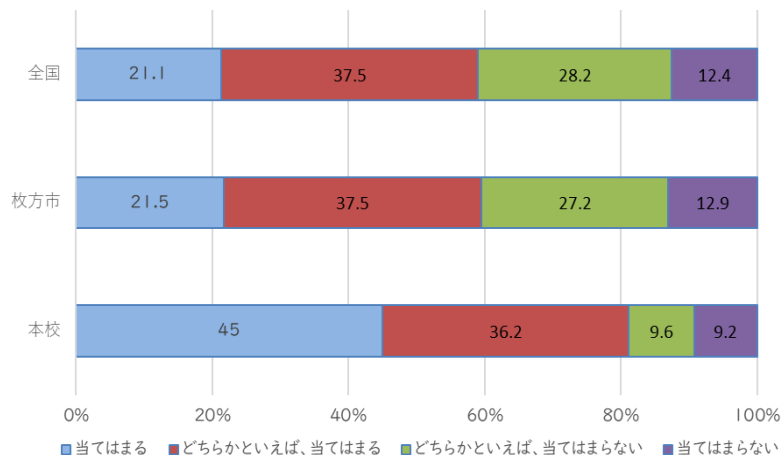
(39) 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。



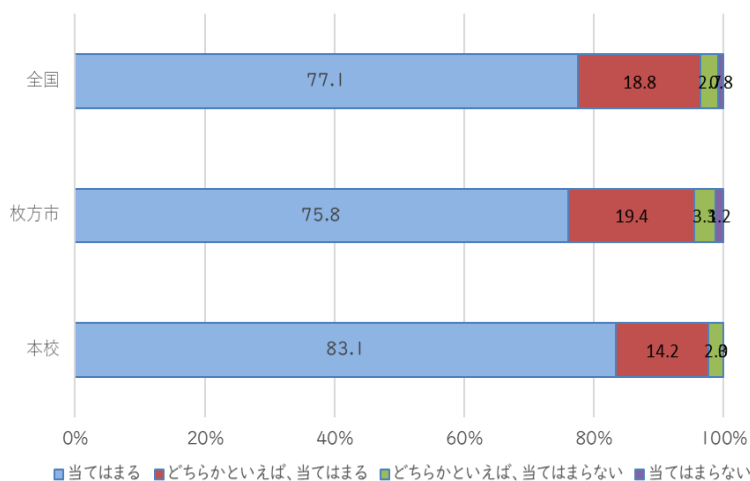
(57) 数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか。



(58) 数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。



(9) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



(考察)

- ・ICT教育が積極的に推進され、日常的な活用が定着している。
- ・協同学習の中で、思考力・問題解決力を重視した授業が行われており、「考えを言語化する力」や「説明する力」が養われている。
- ・いじめ防止授業・いじめ防止ポスターなどの取り組みや、道徳教育・人権教育を推進し、安心・安全な環境づくりにをさらに構築したい。

分析結果を踏まえて取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

・授業環境の構築。

生徒が間違えることを恐れずに、安心して発言や質問をできるようにする。

・課題設定の検討。

知的好奇心を高めるような課題・基礎知識の定着を意識した課題など工夫を行う。

・文章表現の機会を増やす。

道徳の授業も含め、各教科の授業で自分の考えを書く場面を増やし、生徒の表現力・文章力の力を向上させる。また、目的や条件に応じた文章を書く場面を増やすことでも、生徒の表現力・文章力の力を向上させる。

・発表する機会を増やす。

1人1台端末などのICT機器を効果的に活用し、生徒がみずから考え、調べ、表現する力の向上をめざす。

・単元計画表の活用。(作成・配布)

見通しを持って生徒が計画的に学習に進められるようにする。また、単元計画表を用いて授業のふりかえりを行い、自己分析する力の向上も目指す。

・協同学習の充実。

話し合い活動を充実させ、考えを深める機会・他者から学ぶ機会を増やし、生徒の主体性・他者と協働して課題解決を図る力の育成に努める。

・教員の授業力の向上

研修や相互授業参観を充実し、教師も協働する中で、授業力の向上に努める。

(2) 家庭学習について

・単元計画表の活用。

計画的に家庭学習を進める事ができるように、単元計画表を用いた指導を進めていき、自学自習力を高めていく。

・提出物カレンダーの活用。

生徒が主体となって計画的に家庭学習を行えるように、学習委員会も活用しながら提出物や小テストなどの予定をクラスで発信するようにする。

・課題の検討。

問題をこなすだけの課題ではなく、知的好奇心を高めるような探求型、授業内容につながる予習型の課題など、課題の質を向上させる。また、授業で学習したことをもとに、「文章を読む・考えを深める・自分の言葉で文章を書く」を意識した課題の検討を行う。

・クラスや各教科で1人1台端末の活用。

課題の確認や授業内容の確認を行えるようにし、家庭での復習につながるようにしていく。

・家庭学習コンテンツを利用した課題の検討。

各教科で研究を行い、個別最適な学習にもつながるように検討する。